

指示があるまで、このページをよく読んで待ちなさい。指示があるまで、この問題用紙を開いてはいけません。

I 受験に際しての注意

- 1 問題用紙は一ページ（表紙を除く）から十七ページまでである。
- 2 問題の内容についての質問には、いっさい応じない。それ以外のことについて尋ねたことがあれば、手をあげて監督者に聞くこと。
- 3 監督者の「はじめ」の合図で始め、「やめ」の合図ですぐやめること。
- 4 解答用紙が折れ曲がったり、破れたり、汚れたりした場合には、手をあげて監督者に申し出ること。

II 解答記入上の注意

- 1 すべてマーク方式で解答を記入すること。
- 2 マークは必ずHBの黒鉛筆を使用して記入すること。ボールペン、万年筆、サインペン等を用いてはいけない。
- 3 答えは、すべて各問題の指示にしたがって解答欄にマークすること。
- 4 一度マークしたものを訂正するときは、プラスチック消しゴムで完全に消してからマークしなおすこと。消して出たカスはきれいに払っておくこと。
- 5 次の場合は、いずれも誤答となるから特に注意すること。
 - (1) マークの仕方が悪かった場合。（特にマーク欄が塗りつぶされていなかったり、外側に少しでもはみ出した場合）
 - (2) 問題が要求している以上に余分な答えをマークした場合。
 - (3) マークすべきところ以外に印をつけたり、汚したりした場合。特に枠内は絶対に汚さないこと。
 - (4) 訂正の場合の消し方が不十分な場合。

III 氏名等の記入上の注意

- 1 問題用紙と解答用紙の両方の所定欄に、漢字で氏名を、算用数字で受験番号をそれぞれ記入すること。
- 2 解答用紙の左側にある受験番号をマークすること。

氏 名	
-----	--

受験番号					
------	--	--	--	--	--

一 次の各問いに答えなさい。

問一 送り仮名の間違っているものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 顧みる ② 誉れ ③ 浮つく ④ 離なれ

問二 「雨」を示す表現として間違っているものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 夕立 ② 冬雨 ③ 春雨 ④ 五月雨

問三 漢字の読み間違っているものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 安穩 (あんおん) ② 翻意 (ほんい)
③ 出帆 (しゅっぱん) ④ 為替 (かわせ)

問四 次の文の敬語表現に誤りがあるものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 両親もよろしくと申しております。
② 田中様は会議に参加いたしますか。
③ 先生がそのようにおっしゃいました。
④ お好きなものから召し上がって下さい。

問五 『檸檬』の作者名を次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 太宰治 ② 夏目漱石
③ 菊池寛 ④ 梶井基次郎

問六 次の四字熟語の中から誤りのあるものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 温故知新 ② 單刀直入
③ 我田引水 ④ 一鳥一石

問七 次の慣用句の□に入れるのに適当な漢字が他と違うものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① □ がいい ② □ をつぶる
③ 鬼の □ にも涙 ④ □ にいれても痛くない

問八 次の文の傍線部の副詞に呼応している語として適当なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ☆明日もし雨が降れば、遠足は中止です。
① 雨 ② ば ③ 中止 ④ です

問九 次の文の傍線部の助動詞と同じ働きをしているものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ☆明日は用事があるので遊びに行けない。
① 宿題を終わらせないとゲームはできない。
② 連休だったが予想以上に人が少ない。
③ 家の近所のコンビニには電池がない。
④ 友人に借りた小説はあまり面白くない。

問十 「たらちねの母がつりたる青蚊帳あおがやをすがしと寝ねつたるみたれども」の和歌中の表現技法として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 枕詞 ② 体言止め ③ 序詞 ④ 掛詞

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

『ドラえもん』は発想の宝庫であり、精密に論じるべき多くの哲学的問題を含んだ大傑作である。しかし、ここでは問題をしぼって、その物語世界全体の構造について考察してみたい。

のび太の孫の孫のセワシ君が、未来の世界からタイムマシンでやってくるところから、このお話ははじまっている。ドラえもんとは何か。それは、のび太の残した借金が多すぎて、百年たつても返しきれないセワシ君が、どじなのび太の運命を変えようとして、現代に送り込んだロボットである。A、ドラえもんがなすべき仕事は、当然、のび太を援助して、その悪い運命を改善することである。

しかし、考えてみれば、ドラえもんのおかげでのび太の運命が改善されてしまうと、セワシ君がのび太によって受けた被害もなくなってしまう、彼がドラえもんを送り込んだ理由そのものが消えてしまう。そのとき、のび太の借金のせいで貧乏だったセワシ君は、いったいどこへ消えてしまうのだろう。そして、ドラえもんがいまのび太の家にいるその原因そのものが消えてしまってもなお、ドラえもんはそこに存在していられるのだろうか。

そう考えると、ドラえもんとはきわめて不思議な存在であることがわかる。彼は、いま自分がそこに存在している原因と、その存在理由そのものを、消し去るために存在しているのだから。自分の存在理由を消し去ることがその存在理由である存在！彼が少しでも内省力のあるロボットなら、ある日そのことに気づいて、「ばくっていったい何のために存在しているのだろう」という実存の不安に襲われるはずである（実際にはそんなようすはまったく見られない。のび太ほどの思索力もない、能天気なやつなのである）。

いや、そうではなく、この話には論理的な矛盾が内在しているのかもしれない。ドラえもんとは、そもそも不可能な存在なのかもしれない。『ドラえもん』の世界は二つの矛盾した事態の成立を主張している。ドラえもんの援助を受けないのび太と、ドラえもんの援助を受けているのび太。借金で首がまわらないセワシ君と、借金などしてはいないセワシ君。等々。この矛盾をどう考えたらよいだろうか。

どちらかの事態の実在性を否定するというのが、最初に思いつく方策である。まずは、ドラえもんの実在を否定するというのが、ひと

つの有力な解釈である。ドラえもんという存在を、たとえば『洗礼』の村上医師のような、のび太のつくりだした幻想の産物と解釈するわけである。そう読むと、のび太は、毎回、ドラえもんに「先生、ありがとうございました。ああー おかげで心が洗われたようにすつきりました」と言いつづけているような気がしてくる。つまり、のび太とは、「真理にしたがって生きるよりも……作り出したかりそめのありえぬ夢に、自分自身をなぞらえ……人生をあてはめ作りあげていこうとする」魂の夢遊病患者かんじやなのである。この物語の最終回は、のび太がドラえもんなしで生きることを決意して終わることになるだろう。

逆に、ドラえもんの援助を受けないのび太の実在性を否定する可能性もある。借金で首がまわらない未来のセワシ君の実在性が否定されることになる。実在するのは、ドラえもんの援助のもとで大成功するのび太だけである。だが、人はただ幸福であるだけでなく、その幸福の正当化を望む。ただ幸福であるだけでなく、自分が幸福に値する存在であるがゆえに幸福なのだと信じたい。のび太がドジまぬけなせいで子孫のセワシ君が被害を受ける未来という想定は、現実を意味づけ、正当化するためにつくられた神話なのである。

思いつくもうひとつ別の考え方は、矛盾していてもかまわない、というものである。

B エッシャーの絵のように、じつはありえ

ないことでも、細部を見ているときには問題の存在に気がつかないことがある。お話の細部を楽しむうえで、全体の枠組みわくぐみの矛盾は障害にならないはずである。

ところで、『ドラえもん』の世界は、お話だから矛盾していることが可能なのだろうか。現実には矛盾していることは不可能だろうか。現実だって、われわれはみな細部を見て生きているのだから、悠久ゆうきゅうの宇宙に矛盾が実在していても、気がつかないはずである。われわれの住む宇宙それ自体が矛盾していることもありうることだろうか。

だが、第三の可能性が残されている。それは、ドラえもん⑤の活動の結果、すでに存在していた過去そのものが変わってしまう、というものだ。ドラえもんの努力が実を結んで、セワシ君が貧乏でなくなったとき、借金で首がまわらなかったセワシ君のほうは消えるのだ。だが、過去自体が全面的に変化してしまう、ということが考えられるだろうか。

世界が五分前につくられたと考えることは可能である。もちろん、過去を証拠だてるすべての記録や記憶をとらえて、五分前にでき

た、ということである。この現実世界がじつはそうであるかもしれない。そうであることとそうでないことの差異は、われわれにはまったく与えられていないのだから、そうであるとも言えない。

しかしこれは、過去そのものが五分前につくられた、ということではない。つくられたのは、われわれがいま信じている過去を証拠だてるすべてのものであり、特定の過去の内容にすぎない。ということは、五分前につくられた過去（の幻想）とはちがう、ほんとうの過去が別にあつた、ということである。それは人類も宇宙も何も存在しない過去かもしれない。しかし、それはあつたのである。

このような想定は、過去を証拠だてるものを五分前に挿入^{そうにゅう}することによって、実在したほんとうの過去とはちがう過去を、われわれに信じさせることを可能にする。だがそれは、過去そのものを少しも変化させてはいないのだ。過去に関するわれわれの信念、われわれに知られる過去、ではなく、過去そのものを（後から）変える、などということが、はたして可能であろうか。

⑥ それは不可能であろう。もし後から変わったならば、「変わる」という語の意味からして、変わるまえの過去そのものは、やはりあつたことになるからだ。われわれは、「過去そのものを後から変える」ということの意味を、そもそも理解することができない。

いま現に、セワシ君は大借金をかかえている。過去そのものを變えることができない以上、ドラえもんの大活躍で大成功するご先祖の記録や記憶をいまから捏造^{ねつぞう}してみても、自分のその境遇そのものを變えることはできない。

いや、そうではないかもしれない。そもそも証拠だての關係をはなれて、それだけで実在する過去などというものはありえない。だから、過去を變えるということは、現在において過去を証拠だてるすべてを變えることにほかならないのだ、という見解もありうるだろう。そして、現にセワシ君が大借金をかかえているという事實は、過去を証拠だてるもののひとつなのだ、と考えることができる。だから、

⑦ 過去を變えるとは、それを變えることにほかならないのだ、と。

それを變える？ そうだ、とセワシ君は言うであろう。ぼくはこの境遇を變えたいんだよ。ぼくは、自分が幸福になりたいから、この不幸の原因を取り除いているんだよ。

C、借金で首がまわらないセワシ君の境遇は、もう実現してしまっているのだ。ここで、第四の可能性が考えられる。セワシ君

が大借金をしている世界と、セワシ君が借金などしていない世界とは、二つの別の世界なのだ、と考える可能性である。しかし、もしそうだとすると、セワシ君もまた二人いることになるから、貧乏だったもとのセワシ君自身の境遇はちつとも改善されないことになる。ドラえもんの活躍のおかげで、どこかの世界に裕福な^{ゆふかく}もうひとりのセワシ君が存在するようになって、自分自身の運命は^⑧ぜんぜん改善されないのだ！

(永井均『マンガは哲学する』)

問一 ☐ A ☐ C に当てはまる語として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① しかし ② さらに ③ また
④ たとえば ⑤ むしろ ⑥ だから

問二 ^① ドラえもんとはきわめて不思議な存在であることがわかる理由として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 自分の存在している原因と理由を消し去るために存在しているから。
② 自分の存在している原因を消し去ることが存在理由であるという存在だから。
③ 自分の存在理由を存在している原因の改善によって実感できる存在だから。
④ 自分の存在理由は未来の状況を確認するまで実感できない存在だから。

問三 ^② 矛盾の意味として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 関連性が全くないこと。
② つり合いが取れていないこと。
③ つじつまが合わないこと。
④ 全く反対な内容のこと。

問四 ^③ 首がまわらないについて、次の慣用句のうち ☐ に「首」が入らないものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① ☐ を長くする ② ☐ になる
③ ☐ をすくめる ④ ☐ が上がらない

問五 ^④ この矛盾をどう考えたらいだろうかについて作者の方策として適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① ドラえもんの援助を受けないのび太の存在を否定する。
② 話の細部を楽しむうえで、全体の枠組みの矛盾はあってもかまわない。
③ のび太の作り出した幻想の産物としてドラえもんの存在を否定する。
④ 借金で首がまわらないセワシ君の実在性を肯定する。

問六

⑤ ドラえもんの活動の結果、すでに存在していた過去そのものが変わってしまうの説明として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① のび太の過去が改善することで、セワシ君が借金で首がまわらなくなること。
- ② のび太の過去の改善により、セワシ君が貧乏でなくなるということ。
- ③ セワシ君が貧乏であったのは、のび太の過去が変わった結果だったということ。
- ④ セワシ君が貧乏でなくなったことにより、のび太の過去が変わってしまったということ。

問七

⑥ それは不可能であろうの理由として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 人は証拠となる記録や記憶からしか過去を考えることが出来ないから。
- ② 変わる前の過去そのものがあつたにもかかわらず、変えることは出来ないから。
- ③ 実在した本当の過去とは違う過去を信じることは出来ないから。
- ④ 過去そのものが変わっていないにもかかわらず、未来を変えることは出来ないから。

問八

⑦ 過去を変えらることは、それを変えることにほかならないのだの「それ」の指すものとして最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 多額の借金を残したのび太の境遇。
- ② セワシ君が大借金を抱えている境遇。
- ③ ドラえもんの援助を受けているのび太の境遇。
- ④ セワシ君が借金などしていない境遇。

問九

⑧ 自分自身の運命はぜんぜん改善されないのだ！の説明として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 二つの世界が存在することは物理的にあり得ないことなので、結果的には何も変わらない状況であるということ。
- ② 借金で首がまわらないセワシ君が、ドラえもんの大活躍によって改善されたところで本質的には何も変わっていないということ。
- ③ 過去を変えることが出来ないとして、二つの別の世界があると考えれば、借金で首がまわらないセワシ君の状況は全く変わっていないということ。
- ④ 裕福なセワシ君はドラえもんがのび太を援助して初めて成り立つため、その過去が変えられなければセワシ君の状況は全く変わらないということ。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

会社が補助を出してくれて借りられた都内のアパートは、1Kの狭い部屋。帰り道にあるコンビニで買った惣菜そうさいのサラダとからあげパスタを食べていると、携帯が鳴った。父だ。

「おお、凜りん。東京はどうや、うまくやってるか」

「うん、仕事も住む環境もなんとか慣れてきたわ。仕事はあいかわらず忙しいけど」

「そうか、よう頑張がんばってるな。この前の地震は大丈夫やったか」

「ちょっと揺れただけやし、なんも心配ないで。一瞬起きたけど、またすぐ寝たわ。どうしたん、こんな時間に電話かけてくるなんてめずらしいね」

「報告があつてな。あのな、このまえ人間ドックの検査で、採血に要再検査の項目が出たつて母さんから聞いてたやろ」

「うん、聞いたよ。それがどうかしたん？ 二か月くらい前やつけ？」

たしかに母から近況報告で、父がめずらしく人間ドックの検査に引っかけたと伝えられた。新生活を始めたばかりの慌ただしさで、聞いたことを今のいままですっかり忘れていたが。

「あれを別の病院でもつかい精密に検査してもらつて、結果が出てん。がんやったわ」

「え」

① 足元に丸い穴が開き、下へすつと落ちてゆく。意外すぎる言葉に、頭の処理がついていかない。

「たぶん一か月後くらいに手術することになりそうや。正直、この年齢でがん宣告されるなんて、思ってもみいひんかったからショックやわ」

父の声に力はなく、呆然ぼうぜんとしつとも漠然ぼくぜんとした恐怖と戦っているのが、電話からも伝わってきた。

「え、身体は平気なん？」

「まったくの元気。自覚症状しよくじようはまったく無い。でも正直、手術は恐いなあ。いままで元気で入院すら一回もしたことなかったから。先生の話によると、全身麻酔ますいで人工呼吸らしいし、手術時間も長いらしいわ。万がXエックスもあるやろうし、手術に入るまえに遺書書こうかと思ってる」

また父さんはそんなこと言って、なに言うてんの、と父の電話越しに女三人の声が次々と飛び交うのが響いてきた。

「いまの、皆の声？」

「うん。二時間ほど前から家族みんなで飲んでるんやけど、女性陣は元気に励ましてくれはるわ。昨日の診察で母さんに付き添ってもらって訊きに行つて、母さんもわしも昨日は落ち込んでたんやけど、いまは前向きに家族 **Y** 丸となつてがんばろう、つて勢いになつてきたで。みんなどんどん酒が進んで、宴会 になつてきたわ」

確かに電話の向こうからは父の声だけでなく、ほかの家族の明るい声がさがしく聞こえる。

「もしあかんかったも、父さん正直自分の人生になんの悔いもないわ。娘たちもできたし、長女は結婚できそうやし、羽依とお前は社会で立派に活躍してるし。名前も **②** 蛸 **ほたて** やし、どうせやつたら、ぱつと光つてぱつと散るわ」

「やめてよ、そんなこと言うの」

凜は涙声になりそうになるのを必死にこらえた。

「ごめん、ごめん。ほんなら、母さんに代わるわ」

父が電話を渡し、母が出た。

「凜、ひさしぶり。元気にしてる？」

「私は元気やけど、父さんは心配やな。どの部位のがなん？」

すごく動揺しているのに、出てくる声は **A** していて、ギャップに自分でも驚く。

「前立腺 **ぜんりつせん** やつて」

「前立腺」

父の前立腺についてなんて、いままで考えたこともなかった。

「なにが原因やったとかあるん？」

「特にないって。どんな人でもなり得るし、たとえばコレが原因つてはつきり断言できる生活習慣も無いみたい。お父さんの場合は人間ドックで特定の数値が平均より高く出てたから発見できたけど、いままで痛みもなかったようやし」

「どんな進行具合のがんやったん？」

少しの沈黙のあと、母が言った。

「あんまり良くはないらしいな」

「どういうこと？」

「検査の数値はそんなに高くなかったんやけど、がんの顔つきが悪いらしいねん」

「顔つき？」

がんにも顔があったとは。怒ったばいきんまんの幼稚な映像しか頭に浮かばない。

「よく分からないんやけど、確かがつてステージとかあるんやろ。あれでいうと父さんはどれくらいなん？」

訊いてから知りたくないと感じた。末期^③という言葉が思い浮かび、絶望が脳に直接降りかかつてきて、頭がぐらくらする。

「まだ本検査の結果が全部は出てないから、ステージとかは分からんね。まあ、今日はそういうことは、とりあえずいいやんか。病名が判明してまだ間もないんやから、まずはそれを受け止めよう。凜もあんまり深く考えすぎんときな」

母の後ろから酒に酔った家族たちの笑い声が聞こえる。

事実の深刻さに対して、宴は異様に楽しんで、正直少しぞっとした。昔、家族旅行で車で夜の山岳地帯を走っていたとき、山深くのトンネルを抜けると祭りの最中の小さな集落の中を通り過ぎたことがあった。普通の祭りであれば偶然良いものが見られたと喜べるが、集落には道の両側にずらりと提灯^{ちようちん}が並び、どれも煌々^{こうこう}と輝いているのに、人っ子一人外には出ておらず、集落自体にだれもいないかのよう^④に静まり返っていた。単に祭りが終わったあとなのかもしれないが、提灯だけが明々と点いたままの光景に恐怖を覚えた凜は、早くこの村を通り過ぎて欲しいと強く願った。あのときの祭りの異様さを、電話の向こうの家族の宴会にも感じた。うつろな祭り。誰もいないなか、提灯だけが灯り、村の細い道を照らしている。

「母さんは大丈夫なん？」

「正直心配やな、当たり前やけど。でも周りの私らが落ち込んでたらあかんと思って、初めは無理にはしゃいでたんやけど、途中からはそんなに楽しくなってきた。いまでは父さん、がん告知記念日やから飲むで！　ってお酒飲む理由にしてはる」

凜を除く家族全員の笑い声が受話口から伝わる。いつもと変わらない、いや、いつも以上に変に明るい笑い声につられて、凜も笑ったが、想像以上に陰影の濃い笑い声が一人暮らしの部屋に響いた。声のテンションからして、父は母が強調するほどは元気ではないだろう。なんとか元気を絞り出そうとしているが、怯え^{おそ}が伝わってきた。でも母も姉たちもとても怯えているのだろう。だから父の恐怖に気づかないふりをして、励まそうと普段より気張っている。そして無理にでも気張っている家族を見て、父も少なからず元気づけられている。

なら、私も暗い声を出してはいけない。

「なんや父さんは、どんだけひよろひよろしても、身体は敏捷で、家族の誰より健康に長生きすると思つたのに」

「父さんは健康やと思うよ。でも……そうやな、できるときはできるんやない、がんつて。そうや、父さんの手術はおそらく来月ごろになりそうなんやけど、あんた来れそう？」

「すぐ行きたいんやけど、そのあたりはちょうど配属先が決まったばかりやから、帰るのが難しいかもしれへん」

「凜は無理する必要ない。そのへんは父さんもよう分かつてはるよ。入社してすぐは忙しいのが当たり前よ。心配せんていい、帰れるときに帰ってくればいいから」

「うん……ごめんな。大変なときに、私はいなくて」

就職試験を受ける前はあんなに反対したのに、いざ東京へ送り出してからには優しい理解を示してくれる両親に、凜は感謝しつつも申し訳ない思いでいっぱいになった。

「大丈夫よ、うちはもとからたくさん女がいるんやから、一人減ったところで。凜は別天地で一人暮らしにお勤めで大変なんやから、氣揉まんとき。ほんならな」

「うん、ありがと」

親の病気なんて、もつとずっと先に起こることだと思つていた。

電話が切れた後もしばらく放心状態で、病名に抱いている単純だが大きい恐怖が同時に襲つてきて、静けさを取り戻した部屋で身体からはみ出て増幅した。上京するときはあんなに泣いたのに、涙は一滴も出なかった。⑧まだ受け止めきれないし、泣いている場合でも無さそうさ。

ふいにいまでも宴会が続いているだろう我が家の居間が、激烈に悲しくなった。みんな同じように不安だろう、だけど家族に囲まれて過ごせば、父と母を囲んで話ができれば、ここで独りで考えているよりよっぽど気が休まるだろう。父さん、母さん、姉やん、羽依ちゃん。けんかもするけどこういうときこそお互い励まし合えば生まれてくるパワーがある。

会いたい。

問一

① 足元に丸い穴が空き、下へすつと落ちてゆくところがあるが、この部分の説明として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 父からの考えもしなかった報告に非常に驚きながらも、これからの事を必死に考えようとしている。
- ② 人間ドックでがんが発覚したという父からの報告を冷静に受け止め、何とか理解しようと努めている。
- ③ がんが判明したという予想外の報告に不安を感じ、自身も生きていく希望を失ってしまった。
- ④ がんが見つかったという父からの報告を受け入れることができずに、ただ大きな不安と動揺を感じている。

問二

X、Yに共通して当てはまる漢数字を次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 一
- ② 十
- ③ 百
- ④ 千

問三

② 名前も蛭やし、どうせやったら、ぱつと光ってぱつと散るわとあるが、この時の父の様子を説明したものとして最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① がんという病への恐れから生きることに投げやりになっており、娘を不安にさせる冗談を言っている。
- ② がんの恐怖に怯えながらも、離れた地にいる娘に過度な心配をかけまいと無理をして冗談を言っている。
- ③ がんの症状に苦しみながらも、そのつらさを娘に見せないように必死な思いで冗談を言っている。
- ④ がんでいつ死んでしまっても娘が前向きに生きていけるように、最後のメッセージを冗談で言っている。

問四

Aに当てはまる語句を次より選び、番号をマークしなさい。

- ① びっくり
- ② がっかり
- ③ あっさり
- ④ しんみり

問五

⑤ 怒ったばいきんまんの幼稚な映像しか頭に浮かばないところだが、この表現の効果を説明したものとして最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 「怒ったばいきんまん」という笑いを誘う表現で、父のがんとする深刻な事実を受け止めきれない私の心理を描いている。
- ② 「怒ったばいきんまん」という非現実的な表現で、父のがんとする現実を否定して空想の世界に逃げ込む私の心理を描いている。
- ③ 「怒ったばいきんまん」という意外性のある表現で、父のがんとする想定外の事実を軽く受け止めている私の心理を描いている。
- ④ 「怒ったばいきんまん」という面白みのある表現で、父のがんとする事実に向き合い立ち向かっていく私の心理を描いている。

問六

④ 絶望が脳に直接降りかかってきて、頭がくらくらするところだが、この部分で使われている表現技法として適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 擬人法
- ② 擬態語
- ③ 擬声語
- ④ 反復法

問七

⑤ 正直少しぞつとしたところがあるが、この部分での凛の感情の説明として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① がんであることが判明した父を元気づけようとする家族の気持ちを理解できずにとまどいを感じている。
- ② がんが見つかった父をのけ者にして、宴会を楽しんでいる家族に対しておかしなふん囲気を感じている。
- ③ 思いもよらなかった父の病を前にしても、いつも通りに宴会を楽しむ家族に怒りと悲しみを感じている。
- ④ 父のがんとする重大事件を前にして、やたらと楽しげに騒ぐ家族の様子に異様な不気味さを感じている。

問八

⑥ うつろなの意味として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 空虚で中身の無い
- ② 人が少なくさびしげな
- ③ 強引で無理のある
- ④ 物がなく貧しい

問九^⑦

想像以上に陰影の濃い笑い声が一人暮らしの部屋に響いたとあるが、この部分の説明として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 父を励ますために電話口で笑ってはみたものの、家族のテンションについていけず場のふん囲気を壊してしまっている。
- ② 電話口で家族と共に笑ってはみたが、思った以上に怯えや恐怖などの複雑な感情を含んだ笑いになってしまっている。
- ③ 家族につられて電話口で笑ってみたものの、一人だけ離れた地にいることへの後悔からおかしな笑いになっている。
- ④ 家族とともに笑ってはみたが、苦しむ父に寄り添うことができない家族への不快感からぎこちない笑いになっている。

問十^⑧

涙は一滴も出なかったとあるが、この部分での凜の感情の説明として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 父のがんが見つかるという一大事を前にしても、家族をかえりみずに仕事に打ち込むことが自分の使命だと感じている。
- ② 家族全員ががんになった父への接し方がわからない状況で、自分が家族の支えにならなければいけないと感じている。
- ③ 父のがんが判明した事実を受け止めきれずにいる中でも、なんとか現実に向き合っていかなければならないと感じている。
- ④ 父親のがんという家族の危機を前にして、何をおいても急いで故郷に帰らなければならないという責任を感じている。

問題は次頁に続く

四 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

藤原成道は蹴鞠^{けまり}の達人として世に知られていた。次の文は成道の達人ぶりを記したものである。

さてまた、侍七八人をならべゐさせて、端^aにゐたるより次第に肩を踏みて、沓をはきながら小鞠^{こまり}をけられけり。その中に法師一人ありけるをば、肩よりやがて頭を踏みて通られけり。かくすること一兩返終はりて、鞠を取りて、「いかがおほゆる」と問はれければ、「肩に御沓のあたりさぶらふとおほえさぶらはず。鷹^{たか}を手^すに据ゑたるほどにおほえさぶらひつる」とおのおの申しけり。法師はまた、「平笠を着たるほどの心地にてさぶらひつるぞ」とぞ申し X。

また、父の卿^{きやう}に具して清水寺に籠^{こも}られたりけるととき、舞台の高欄^{こうらん}を沓をはきながら渡りつつ、鞠をけむと思ふ心つきて、すなはち西より東へけて渡りけり。また立ち帰り、西へかへられければ、見る者目をおどろかし、色^{いろ}を失いけり。

※沓……木材などをくりぬいて作った靴^{くつ}。のちに革製となる

（『古今著聞集』）

問一 ^aならべゐさせて ^bおぼえさぶらはずの現代語訳として最も適切なものをそれぞれ次より選び、番号をマークしなさい。

^aならべゐさせて

- ① 我慢して座らせて
- ② 並べて座らせて
- ③ 並んで寝かせて
- ④ 思うように過ごさせて

^bおぼえはべらず

- ① お考えと違うようです
- ② お思ひになりませんでした
- ③ 思いませんでした
- ④ 思われないようにしました

問二 ^①小鞠をけられけりとは誰の動作か、最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① おのおの
- ② 侍
- ③ 法師
- ④ 成道

問三 ^②一両返が示す内容として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 先端
- ② 両端
- ③ 往復
- ④ 到達点

問四 ^③いかがおぼゆるは誰の発言か、該当する人物として適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 父
- ② 侍
- ③ 法師
- ④ 成道

問五 ^④平笠を着たるほどの心地にてさぶらひつるぞとはどのような意図をもって発せられた言葉か、最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 人間に頭に乗られたとは思えないほど軽い感触だったことを強調している。
- ② 笠をかぶっていたことで大惨事を避けられたことに安んじていることを示す。
- ③ 沓のはき心地がとても良く、天にも昇る気持ちであることを教えている。
- ④ 鷹を自在に操るように自分の体重を無にしまった念力の強さを表現している。

問六 X に入れるのに最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① ける
- ② けり
- ③ けれ
- ④ けら

問七 ^⑤色が示しているものとして最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 不安
- ② 情熱
- ③ 顔色
- ④ 信心

